

# 柿産地ブランド化の推進

## 要約

品種構成の適正化や既存畑の現状把握、高品質果実生産のための条件整理、主要病害虫の効率的防除方法の推進を行った。

### 現状(背景)と課題

- 中心的担い手の規模拡大により、とくに 10 月上旬の収穫作業が集中。極早生系統「上平早生（通称）」の導入面積 30.1ha
- 規模縮小が予想される高齢専業農家の今後の農地管理に関する意向調査 326ha
- 主力品種である「富有」の高糖度安定生産
- 気候変動等による主要病害虫の発生状況の変化への対応 選果場の秀品率：刀根早生 49%、富有 51%

### 目標

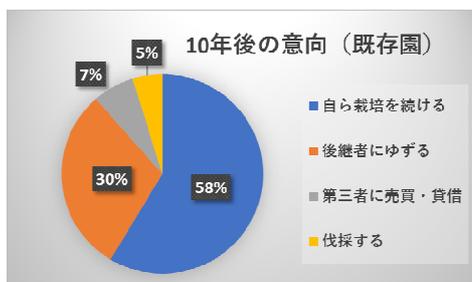
- 極早生系統「上平早生（通称）」の導入面積 40ha
- 既存畑の今後の管理について意向把握 663ha
- 高糖度生産の条件確立
- 選果場の秀品率  
刀根早生 55%、富有 65%

### 活動内容

- 指導対象 JA ならけん五條柿部会（143 名）、JA ならけん西吉野柿部会（247 名）。
- 班長会議等を通じた品種転換誘導 2 部会。
- 既存畑の意向調査 1 回。
- 品種転換モデルによる啓発 10 戸。
- 「富有」の現地栽培条件調査、収穫果実品質調査 4 回。
- 病害虫防除の巡回指導・講習会等での周知 7 回。

## 成果

- 極早生系統「上平早生（通称）」の導入面積は 31.7ha に増加。
- 既存畑の今後の管理については 509ha の意向を把握。
- 「富有」の高糖度生産については園地の標高、樹齢、昼夜温度差などと糖度との間に明確な傾向は認められなかった。
- 選果場の秀品率は刀根早生 51%、富有 58%。



既存園の意向調査結果



炭そ病対策講習会

南部農林振興事務所農業振興課  
担当：農産物ブランド推進係  
萩原・浦崎・福山・鈴木  
リーディング品目支援事業

## 普及活動のポイント

- 経営面積が大きく「上平早生（通称）」導入が効果的と思われる生産者に「刀根早生」の一部を転換した場合の経営試算を個別に提示。
- 出荷終了後の冬期に炭そ病対策の講習会を改めて開催し、発生生態の説明や耕種的防除を指導。

## 対象の変化

- 経営規模が大きい生産者において、栽培面積が大きい「刀根早生」の一部を「上平早生（通称）」に転換することにより労力分散、早期出荷が実現。
- 気象条件等により発生が多くなった炭そ病について、講習会への参加により発生生態の理解や耕種的防除の重要性を改めて認識。

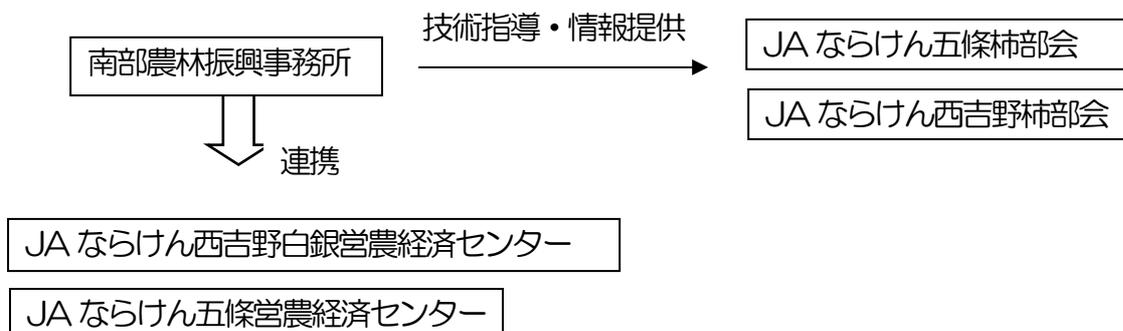
## 対象者からのコメント

- 産地の将来について、大規模経営における労働の平準化や雇用の確保、品種・樹齡構成の適正化、後継者の目処がない既存畑の今後の管理など課題が多い。引き続き支援をお願いしたい。

## これからの活動ビジョン

- 大規模経営における労働の平準化のため、極早生系統「上平早生（通称）」へ転換誘導を継続して推進。
- 老木化による生産性低下のため樹齡構成の適正化。
- 主要病害虫（炭そ病、果樹カメムシ類）の被害低減対策の周知・指導。
- 病害虫の発生源となる放任園対策について、産地での話し合いを進める。

## 活動体制



## 用語解説

### 極早生系統「上平早生（通称）」

早生の渋柿である「刀根早生」園で発見された系統。「刀根早生」と品質はほぼ同等で、9月中に収穫を終えることができる。

「刀根早生」の収穫終了時期は、10月中旬。